

くすりのしおり

注射剤

2026年08月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「CT」
主成分：ウステキヌマブ（遺伝子組換え）[ウステキヌマブ後続3]製剤 (Ustekinumab (genetical recombination)[ustekinumab biosimilar 3])
剤形：注射剤
シート記載など：



この薬の作用と効果について

乾癬、クローン病の主要な原因物質の一つと考えられているIL（インターロイキン）の働きを抑えることにより、症状を改善します。
通常、既存治療で効果不十分な尋常性乾癬または乾癬性関節炎、中等症から重症の活動期クローン病のウステキヌマブの点滴静注製剤による初回投与後の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬や食べ物、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。感染症またはその疑いがある。再発性感染症の既往歴がある。結核またはその疑い、既往歴がある。悪性腫瘍または既往歴がある。アレルギー免疫療法を受けたことがある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ あなたの用法・用量は（（
：医療担当者記入））
- ・ 乾癬：通常、成人は初回およびその4週後に皮下に注射し、以降12週間隔で皮下に注射します。症状を見ながら使用量や使用期間を決めていきます。
- ・ クローン病：通常、ウステキヌマブの点滴静注製剤による初回注射8週後に皮下に注射し、以降は12週間隔で皮下に注射します。効果が減弱した場合には、この薬の開始から8週以降に8週間隔に変更することもあります。症状を見ながら使用期間を決めていきます。
- ・ この薬を使用する前に、結核感染の有無を確認するために、問診、胸部レントゲン検査、インターフェロン-γ（ガンマ）遊離試験またはツベルクリン反応検査、場合によっては胸部CT検査などが行われます。必要に応じて、この薬の使用を開始する前に結核の薬を使用することがあります。

生活上の注意

- ・ この薬の使用により、感染症にかかりやすくなる場合があります。感染症の症状（かぜのような症状、からだのだるい、発熱など）があらわれた場合には、すぐに医師に連絡してください。
- ・ この薬を使用している間は結核感染に注意するため、定期的に胸部レントゲン検査などの検査が行われます。結核が疑われるような症状（持続する咳、発熱など）があらわれた場合には、すぐに医師に連絡してください。
- ・ 妊娠中にこの薬を使用したお母さんから生まれた赤ちゃんが生ワクチンの接種を受ける時には、医師に相談してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、鼻咽頭炎、上気道感染、頭痛、浮動性めまい、咽喉頭疼痛、吐き気、嘔吐、発疹、かゆみ、関節痛、注射部位反応、疲労などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 発疹、蕁麻疹、血管性浮腫 [アナフィラキシー]
- ・ 発熱、体がだるい、息苦しい・息切れ [重篤な感染症]
- ・ 長引く微熱・咳（2週間以上）、体がだるい、体重減少 [結核]
- ・ 発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・ 免疫を抑制する作用があることから生ワクチンの接種を避けてください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。